

国際関連情報 国際会議等

FASB との第 17 回定期協議の概要

ASBJ 専門研究員 田の ゆういち
 野 雄一

1. はじめに

2014 年 10 月 14 日及び 15 日の 2 日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第 17 回定期協

議を東京で開催した。ASBJ からは小野委員長、新井副委員長、小賀坂副委員長、関口委員のほかスタッフが参加し、FASB からは Russell G. Golden 議長、Thomas J. Linsmeier 理事及び Daryl E. Buck 理事が参加した。

2. 全体のスケジュール

日 時	議 題	主な内容
14 日 午前	ASBJ、FASB の各アップデート	
	表示及び開示	<ul style="list-style-type: none"> 表示科目のグルーピング FASB の開示フレームワーク・プロジェクト FASB が公表した財務会計概念書の公開草案「財務報告のための概念フレームワーク 第 8 章：財務諸表注記」
14 日 午後	純損益及び OCI	<ul style="list-style-type: none"> 純損益の性質に関する考察
	リース	<ul style="list-style-type: none"> リースの定義 <ul style="list-style-type: none"> 融資契約（financing arrangement） アンバンドリング
	企業結合	<ul style="list-style-type: none"> のれんの償却 無形資産の識別
	金融商品	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的投資の会計処理
15 日 午前	負債と資本	<ul style="list-style-type: none"> 加速型自社株買い（Accelerated Share Repurchase）の会計処理
	概念フレームワーク他	<ul style="list-style-type: none"> 実現損益と未実現損益の違い、純損益の重要性及び不可逆性など 取引コスト 外貨換算

3. 議事概要

(1) ASBJ・FASB アップデート

FASB 側から、国際的なコンバージェンスの方向性、米国証券取引委員会 (SEC) の IFRS に関する考え方、FASB のプロジェクト (IASB との MoU プロジェクト、基礎的なプロジェクト、簡素化に関する取組み他) について説明がなされ、意見交換が行われた。

ASBJ 側からは、次の項目を中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

- 我が国における会計基準の適用状況
- 修正国際基準 (JMIS) に関する公開草案

(2) 表示及び開示

本セッションでは、FASB のスタッフが作成したペーパーに基づき、FASB の表示プロジェクト (表示科目のグルーピングを含む) 及び開示フレームワーク・プロジェクトの状況について、FASB 側より説明がなされ、意見交換が行われた。

次に、FASB が公表した財務会計概念書の公開草案「財務報告のための概念フレームワーク

第 8 章：財務諸表注記」について議論するため、同公開草案に対して提出されたコメントレターをベースとして作成されたペーパーに基づき、主に次の点について意見交換が行われた。

- 提案されている財務報告のための概念フレームワークのあり方
- 財務諸表注記の目的及び範囲
- コストの制約に関する説明
- 相互参照の利用

(3) 純損益及び OCI

ASBJ は、2013 年 12 月に開催された会計基準アドバイザリー・フォーラム (ASAF) 会議に対して、アジェンダ・ペーパー「純損益/その他の包括利益及び測定」を提出している。ま

た、ASBJ は、2014 年 5 月にショート・ペーパー・シリーズ No.1 「OCI は不要か？」を公表し、一部の関係者から示されている「財務諸表においてその他の包括利益 (OCI) の使用を廃止または最小化すべき」という見解に対して疑問を提示している。

ASBJ は、純損益の定義や性質に関する国際的な議論に向けてさらなる貢献を行うことを予定しており、本セッションでは、2013 年 12 月の ASAF 会議へ提出したアジェンダ・ペーパーの中で提示した「包括的」(all-inclusive) 及び「不可逆性」(irreversibility) という考え方に関してどのような追加的な説明が適切かについて、ASBJ スタッフの分析と見解が説明され、意見交換が行われた。

(4) リース

FASB と IASB は、2014 年 3 月に開催された会議において、借手の会計処理について異なるアプローチを採用することを暫定的に決定している。本セッションでは、ASBJ は、リース・プロジェクトにおいて、コンバージェンスが達成することが重要と考えている旨を説明した。

また、2014 年 9 月の ASAF 会議において欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) のスタッフが作成したペーパーに基づき、リースの定義に関して議論が行われたことを踏まえ、本セッションでは、ASBJ スタッフから EFRAG スタッフの提案について見解が示された上で、意見交換が行われた。

(5) 企業結合

① のれん

FASB は、2013 年 11 月に、公開企業ののれんの事後測定について考え得る代替案を評価するためのプロジェクトをアジェンダに追加した。本セッションでは、FASB より、同プロジェクトの最新の状況について説明がなされ、意見交換が行われた。

また、ASBJからは、2014年9月のASAF会議での議論に関連して、のれんの償却期間について議論するために、ASBJの一部の委員及びスタッフにより作成されたペーパーに基づき、説明がなされ、意見交換が行われた。

② 無形資産の識別

米国の非公開企業評議会は、2014年9月に、非公開企業に対して企業結合時に一部の無形資産を認識・測定することを免除する旨を認めるという暫定決定を行っており、今後、FASBにおいてこれを批准するか否かの審議を行うことが予定されている。本セッションでは、IFRS又は米国会計基準において、企業結合時に無形資産を別個に識別する現行の要求事項を改訂すべきか、仮に改訂する場合、どのように改訂すべきかについて、ASBJの一部の委員及びスタッフが作成したペーパーに基づき、意見交換が行われた。

(6) 金融商品

2013年2月に、FASBは公開草案「金融資産及び金融負債の認識及び測定」を公表した。同公開草案では、持分法で会計処理される投資を除き、持分証券への投資を公正価値で測定し、公正価値の変動は純損益で認識することを提案している。FASBは、公開草案に寄せられた再審議の過程において、原則として現行の米国会計基準を概ね維持する方向で検討を行うことを暫定決定しているが、持分証券への投資については、公開草案における提案を維持する方向とされている。本セッションでは、米国会計基準における、持分証券への投資（特に、戦略的投資と呼ばれるもの）の会計処理について議論するためにASBJのスタッフが作成したペーパーに基づき、意見交換が行われた。

(7) 負債と資本

米国では、加速型自社株買い（Accelerated Share Repurchase：以下「ASR」という。）を

含む取引が比較的頻繁に行われている。ASBJは、基準諮問会議において日本の市場関係者よりASRの会計処理を明確にするような要請がされていることから、米国会計基準におけるASRの会計処理について調査を行っている。

本セッションでは、ASBJが米国会計基準におけるASRの会計処理の背景にある考え方について議論を行うために作成したペーパーに基づき、意見交換が行われた。

(8) 概念フレームワーク他

① 測定

本セッションでは、実現損益と未実現損益の違い並びに純損益の重要性及び不可逆性などの論点に関するASBJのスタッフの見解に関してFASBのスタッフが作成したペーパーに基づき、意見交換が行われた。

② 取引コスト

本セッションでは、財務諸表に表示される項目の測定において取引コストに関する現行の会計上の取扱いを要約し、取引コストを扱うために考え得る幾つかのアプローチについて検討するために、ASBJのスタッフが作成したペーパーに基づき、意見交換が行われた。

③ 外貨換算

本セッションでは、OCIを通じて公正価値（FVOCI）で測定する金融資産に分類される外貨建ての負債性証券を例として、外国為替リスク、金利リスク及び信用リスクの会計上の取扱いの相違及び相違する理由を分析するためにASBJのスタッフが作成したペーパーに基づき、意見交換が行われた。

4. 次回の予定

次回の定期協議は、2015年上期に米国ノーウォークで開催することが予定されている。